

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団		平成28年度経営計画 兼 経営努力結果	
基本事項			
所管局課	文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課	本市出えん金	55,000 千円
基本財産/資本金	103,000 千円	本市出えん率	53.4 %
「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」			
方向性	存続	目標年度	—
「今後の方向性」に向けた基本的方針			
業務面	<p>『文化芸術プロフェッショナル集団としての真価』をスローガンとし、以下を重点方針とする。</p> <p>① 「世界的な文化芸術都市・京都」の音楽芸術・舞台芸術を牽引</p> <p>② 地域の文化力の更なる向上に貢献</p> <p>③ 文化芸術ネットワークのハブ機能を発揮して文化芸術活性化インフラを形成</p>		
財務面	<p>管理運営施設の経営を総合的かつ安定的に展開し、経営基盤の強化と市場競争力を発揮するため以下のことに取り組む。</p> <p>① 中期的な収支の見通しに基づく財務戦略の展開</p> <p>② 財務運営の継続的な見直し</p> <p>③ ファンドレイジング（資金調達）の取組促進</p>		
組織面	<p>管理運営施設の経営を総合的かつ安定的に展開し、経営基盤の強化と市場競争力を発揮するため以下のことに取り組む。</p> <p>① 経営自立化の推進</p> <p>② 組織人員体制の整備</p> <p>③ 人事・給与制度の更なる改革</p> <p>④ 危機管理体制の再構築</p>		
その他	特になし		
当年度の取組目標に対する意見			
所管局	<p>京都コンサートホールや地域文化会館5館については、それぞれのニーズをしっかりと捉えた特色ある事業を展開するとともに、貸館としての利用促進に引き続き努めていただきたい。</p> <p>平成28年1月に開館したロームシアター京都（京都会館）については、年度を通じた運営の初年度であり、魅力的な事業展開はもちろんのこと、中長期的な見通しの下、積極的な貸館営業をはじめとする収入の確保と運営経費の精査に努め、安定した運営の地盤を築いていただきたい。</p>		
当年度の取組に対する総括			
団体(※)	<p>京都コンサートホール及び地域文化会館5館については、特色ある事業を展開し、貸館についても利用促進に努めた。</p> <p>ロームシアター京都については、多彩なオープニング事業を12月まで実施し、新たな文化創造の拠点として、文化芸術都市・京都の更なる発展に寄与した。</p> <p>また、新しくなった施設や設備を活用した様々な催しで、非常に多くの方に御利用いただくことができた。業務内容や手順等の確認・改善を引き続き進め、安全、安心で快適な劇場空間の提供に努めるとともに、外部資金の獲得等により劇場経営の基盤強化を図った。</p>		
所管局(※)	<p>ロームシアター京都については、オープニング事業が終了し、順調に通常運営に移行できている。</p> <p>今後も、それぞれの施設の特性に応じた事業を展開していくために、各施設が安定して運営できる組織管理、経営基盤の確立に努めていただきたい。</p>		
外郭団体総合調整会議(※)	<p>利用料金収入が予算額を大幅に上回るなどにより、当期正味財産増減額の赤字を予算よりも大幅に縮小した点は評価できる。今後も経営の効率化を進めつつ、京都の文化の振興に寄与する魅力的な事業展開に取り組んでほしい。</p>		

(1)業務に関する取組

目標「各施設の利用促進」

中期経営計画 における取組	「世界的な文化芸術都市・京都」の音楽芸術・舞台芸術を牽引し、ホールの魅力の向上と地域の文化力の更なる向上に貢献するため、管理運営施設の利用促進を図る。平成28年1月にはロームシアター京都がオープンすることから、利用料金収入の増加を見込む。
当年度目標	京都コンサートホール及び地域文化会館（5館）については、各種助成金制度の広報・宣伝を引き続き強化し、平日の利用促進を図るほか、ホームページを利用した施設の空き情報の更新頻度を高め、利用率の向上に努める。 また、ロームシアター京都については、オープニング事業等も予定されているが、施設の空き状況等を踏まえ、貸館営業にも積極的に取り組み、利用料金収入の増加を見込む。
当年度結果 (※)	地域文化会館（5館）については、目標設定していた利用料金収入額に到達できなかったが、京都コンサートホールについては積極的な営業活動により目標設定していた利用料金収入額を達成することができた。 また、ロームシアター京都においては、目標設定していた利用料金収入額を大幅に上回ったことにより、財団全体として、平成28年度の目標値を達成することができた。

指標	施設利用料金収入							(単位：千円)
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
中期経営計画	—		487,015		695,815		695,815	
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	445,884	435,324	487,015	483,623	695,900	—	754,390	

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	------------------------

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績(※)	
経常収益	2,041,303	2,039,103	2,461,614	2,439,101	2,968,697	2,953,381	
経常費用	2,087,483	2,043,489	2,623,544	2,552,630	2,977,009	2,960,830	
当期経常増減額	△ 46,180	△ 4,386	△ 161,930	△ 113,528	△ 8,312	△ 7,449	
当期正味財産増減額	△ 46,180	△ 4,706	△ 161,930	△ 113,848	△ 8,312	△ 7,769	
資産合計	—	1,327,977	—	1,399,454	—	1,451,591	
負債合計	—	519,005	—	704,330	—	764,237	
正味財産	—	808,972	—	695,124	—	687,355	
うち累積損益額	—	705,972	—	592,124	—	584,355	

目標「サポーター・パートナー制度」	
中期経営計画 における取組	<p>中期的な収支の見通しに基づき、財務運営の継続的な見直しを行うほか、財団の活動のために必要となる資金の調達を強化するため、新たな会員制度（京都コンサートホール及びロームシアター京都のサポーター・パートナー制度）を開始し、ファンドレイジング（資金調達）の取組を進める。</p>
当年度目標	<p>まずは制度の趣旨について、多くの市民の皆様、また社会貢献活動に御関心のある企業の皆様に、御理解・御賛同をいただく。 平成28年度は平成27年度に引き続き、現在の会員加入者の皆様に継続していただけるよう、目標設定の5,000千円を目指す。</p> <p>法人：サポーター 20口 2,000千円 〃：スペシャルサポーター 10口 1,000千円 個人：パートナー 34口 680千円 〃：スペシャルパートナー 66口 1,320千円 計5,000千円</p>
当年度結果 (※)	<p>会員の方への会報の送付、チケットの先行予約のほか、会員向けバックステージツアーやゲネプロ公開を開催するなど、会員の方に事業内容を深く御理解いただき継続して御支援いただけるように努めたことにより、平成28年度の目標としていた収入額5,000千円を2,120千円上回ることができた。</p> <p>法人：サポーター 40口 4,000千円 〃：スペシャルサポーター 5口 500千円 個人：パートナー 58口 1,160千円 〃：スペシャルパートナー 73口 1,460千円 計7,120千円</p>

指標	サポーター・パートナー会員収入（単年度）の目標値							(単位:千円)
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		—		10,000		5,000		5,000
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	—	5,060	10,000	8,140	5,000	—	7,120	

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	------------------------

(3)組織に関する取組

目標1 「適正な執行体制の維持」	
中期経営計画 における取組	<p>経営の自立化を推進するとともに、平成28年1月のロームシアター京都のオープンに向け、財団全体の職員の定数管理を行う。</p> <p>また、平成25年度から導入した人事給与制度の更なる改革に向け取組を進めるほか、災害等を想定した危機管理体制について再整備を行う。</p> <p>「はばたけ未来へ！京プラン」に掲げられている、常勤役員への就任については、平成26年度に見直しを実施した。</p>
当年度目標	<p>平成28年1月にロームシアター京都がオープンしたため、ロームシアター京都の職員の定数を確立するとともに、適正な執行体制を維持するため、財団全体の職員の定数管理を行う。</p> <p>また、平成27年度に策定した嘱託職員を一般職員へ登用するための制度を確実に運用していく。</p>
当年度結果 (※)	<p>財団の経営を安定的に行うため、適正な執行体制を維持し、財団全体の職員の定数管理を行った。</p> <p>また、施設の管理運営ノウハウを伝承していけるように、嘱託職員の一般職員への登用を実施した。</p>

指標	財団職員定数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度			平成29年度
	—		189		189			189
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	—	168	189	170	187	—	172	—

目標2 「京都市からの派遣職員の削減の検討」	
中期経営計画 における取組	<p>京都市からの派遣職員については、財団と市が事業等で密接に関連しており、一定の公共性を確保したうえで、円滑に施策を推進するために必要最低限の人員の派遣を受けているところである。</p> <p>現在、ロームシアター京都（京都会館）に関する事業等により、当面の人員削減は困難だが、中期経営計画を推進する中で、より自立的な経営体制の構築に向け、財団の運営状況や事業の進捗を見極めながら、将来的な組織の在り方や人員体制、人材育成等について検討する。</p>
当年度目標	<p>中長期的な財団の運営を見据えながら、事業の確実な進捗を図りつつ、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、財団独自の人材育成等について、検証を進める。</p>
当年度結果 (※)	<p>中長期的な財団運営を見据え、嘱託職員の一般職員への登用を実施する等、財団職員の人材育成に努めた。</p>

指標	本市派遣職員数 (単位：人)							
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度			平成29年度
	—		98		98			98
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	96	96	98	96	94	—	92	—